

映像と

JUNKUトークセッション

対談——

小谷充さん（新著『市川崑のタイポグラフィ』 島根大学教員）

鈴木一誌さん（『d/SIGN』責任編集）
ブックデザイナー

企画進行——前田年昭（編集・校正・組版者）

タイポグラフィの周辺

12月9日（木）19時～21時（開場18時半）
ジュンク堂書店池袋本店4階カフェ

●酷暑の今夏出た小谷さんの『市川崑のタイポグラフィ』（水曜社）が熱い。映画「犬神家の一族」の巨大明朝体の来歴を丹念にたどった本書の謎解きの面白さは、映画好きや文字好きだけでなく本好きの人びとの心を惹きつけた。各紙誌に書評が載り、早くも重版である。他方、映画批評でも活躍のブックデザイナー鈴木一誌さんの『d/SIGN』は今秋18号を重ね、10年目になろうとしている。タイトルバックやモーションタイポグラフィなど映像表現におけるタイポグラフィは、ブックデザインと何が異なり何が共通なのか。メディア史の激動のいま、映像とタイポグラフィの現状と問題点はどこにあるのか。今後の“夢”をふくめて自在に語りあう。

●定員 40 名（お電話又はご来店にてお申し込み先着順） ●入場料 1000 円（ドリンク付） ●お電話またはご来店（1F サービスカウンター）にて先着順に受付。お問い合わせは、池袋本店 TEL03-5956-6111

●小谷充（こたにみつる） 1968年岡山生まれ。島根大学大学院教育学研究科准教授。筑波大学大学院芸術研究科修了後、デザイン制作会社に勤務し、企業広報誌や女性誌のレイアウトを経験。のちにDTP部門の立ち上げスタッフとして参画。以降、コンピュータ初心者向け雑誌のデザインを中心に出版物のフォーマット設計を担当。NEC社製コンピュータ解説書「活用ブック」のデザインほか、「第6回世界ポスタートリエナーレトヤマ2000」、「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2003」への出品など。

●鈴木一誌（すずきひとし） 1950年東京生まれ。グラフィックデザイナー。東京造形大学を経て杉浦康平のアシスタントを12年間つとめ、85年に独立。〈装幀〉ばかりではなく、書物全体の設計＝ブックデザインの立場からページに関わりたいと思っている。2001年よりデザイン批評誌『d/SIGN』を戸田ツトムとともに責任編集。映画や写真の批評も手がける。著書に『画面の誕生』（みすず書房）、『ページと力 手わざ、そしてデジタル・デザイン』『重力のデザイン 本から写真へ』（以上、青土社）、共著に『知恵蔵裁判全記録』（太田出版）、『映画の呼吸 澤井信一郎の監督作法』（ワイズ出版）ほか。

●前田年昭（まえだとしあき） 1954年大阪生まれ。編集・校正・組版者。思想誌『悍』編集人。